

2018年3月期 決算説明会 質疑応答

2018年5月9日に開催した決算説明会における主な質疑応答は下記の通りです。なお、記載内容につきましては、ご理解いただきやすいよう一部に加筆・修正をしております。

Q1：2017年度の第1四半期から第3四半期と比べて、第4四半期の業績がやや低い水準となったが、その要因は？

A1：粗利率低下の要因の一つは、血液システムカンパニーにおいて、米国工場からベトナム工場への生産移管に関連して、第4四半期に一時的な費用が発生したことが挙げられる。全社においては研究開発費を含めた販売費及び一般管理費については、例年、第4四半期に多く発生する傾向がある。これに加えて、一時的な要因として、買収したシークエントメディカル社が開発する製品「WEB」の米国FDAへの承認申請が当初よりも早まる可能性も出てきたため、買収時の契約内容に基づき、2017年度に一時的な費用を計上したことが挙げられる。

Q2：2018年度の心臓血管カンパニーの業績見通しは、売上収益・調整後営業利益ともに前期比5%増を見込んでいる。薬価・公定価改定や為替の影響などがあるにせよ、やや控えめな数字ではないか？

A2：薬価・公定価改定および為替によるマイナス影響の大半が、心臓血管カンパニーにかかってくる。さらに2017年度は、止血デバイス「アンジオシール」の買収効果や、人工心肺システムの再出荷による売上増、ボルトンメディカル社の買収効果など一時的な要因で売上収益が増えているが、2018年度にはその要因が無くなる。TIS事業、ニューロバスキュラー事業は引き続き堅調に推移すると見ている。

Q3：2018年度の事業環境に関して、好調な米国市場や、止血デバイス「アンジオシール」を生産しているプエルトリコ工場の稼働状況に変化はないか。

A3：米国市場では、中長期的なトレンドとして、価格や医療経済性等への要求が厳しくなりつつあるが、2018年度において特に大きな変化は見込んでいない。プエルトリコでの生産は順調に伸びており、2017年度は使用率・市場シェアで一桁後半の伸長となった。2018年度も引き続き伸ばしていきたい。

Q4：日本市場における薬剤溶出型冠動脈ステント（DES）、血糖測定器における他社新製品の影響をどう見ているか？

A4：DESについては、発売後に一時的な影響はあると見ているが、当社も下期に現行製品のUltimasterを改良した新製品「Ultimaster Tansei」の発売を予定している。Tanseiは他社品の仕様と比べて優位性があると考えており、この点を訴求することで、引き続き日本でのポジションを確保していく。血糖測定器では、FGM（Flash Glucose Monitoring）の保険適用について注目していたが、医療材料ではなく技術料の中での適用となったため、現時点ではSMBG市場に対する影響は限定的と見ている。ただし、

中長期的には FGM や CGM (Continuous Glucose Monitoring) の使用拡大が見込まれ、SMBC 市場は一定程度縮小していくと見ている。当社は、米国 Dexcom 社から日本における CGM 独占販売権を取得したことを機に、針・シリンジ、SMBG、インスリンポンプ、CGM を合わせたトータルソリューションプロバイダーとして成長を目指す。

Q5：ホスピタルカンパニーにおける開発投資を増やしていきたいとの言及があったが、具体的にどのような分野への投資を増やしていくのか？ホスピタルカンパニーの研究開発費は従来よりも高い水準が続くのか？

A5：成長が期待できるアライアンス事業や、DM 製品での開発投資などを見込んでいる。2019 年度以降の見通しについては、現時点では何とも言えない。

Q6：2016 年度に大きな買収を 3 件実施し、統合も順調に進んでいるようだが、当面は買収を控えてオペレーションの強化に注力するのか？今後の買収に対するスタンスは？

A6：これまでとスタンスに変わりはない。買収対象先については、常に幅広く可能性を検討し、冷静かつ合理的に判断していく。

Q7：中長期成長戦略における日本での成長回帰策に関して、2020 年度に向けた製品ラインアップ強化への言及があったが、売上成長率としてどの程度の水準を目指しているのか？

A7：単年度では薬価・公定価改定の影響などもあるが、平均して 5% 程度の水準を目指していきたい。

以上